

令和6年度第3学期終業式 式辞

令和6年度第3学期終業式を迎えました。皆さんにとって、令和6年度は、どのような1年でしたか。

今日、皆さんと共にこの日を迎えられたことを、生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございます。

3月1日に卒業生を送り出し、寂しさを感じている人も多いと思います。しかし、4月になると新入生が南高に仲間入りします。うれしさとともに緊張して入学してくるであろう彼らを、先輩として温かく、そして胸を張って迎えられよう、一人一人が充実した春休みを過ごしてください。

さて、今年度私は一人暮らしをしていて、テレビに向かう時間が長くなりました。最近印象に残っているテレビドラマが二つあります。どちらもNHKのドラマ10という枠で放送されていました。実は、私は10時には眠たくて布団に入っていることが多く、ほとんどはサブクリプションサービスで見ました。便利な世の中になったものです。印象に残った二つのうち一つ目は、直木賞作家となった伊与原新さん原作の「宙（そら）わたる教室」です。定時制高校に通う、年齢もバックグラウンドも様々な人たちが、科学の面白さ、学ぶことの楽しさに目覚めていく。そして、教員や家族など彼らを支える優しいまなざしの人たちがいる。久しぶりに最初から最後まで夢中になって見たドラマでした。

二つ目は、「東京サラダボウル」です。皆さんは、「サラダボウル」とはどのような意味なのか知っていますか。私が皆さんと同じ高校生の頃には、多種多様な人種が混在して暮らしているニューヨークのような都市を「人種のるつぼ」と学びました。ですが、「るつぼ」は金属を溶かす容器であり、その中は、溶けて混ざり合い均一になってしまいます。一方、「サラダボウル」は、文字どおりサラダのための容器であり、その中では、様々な具が混ざりつつ、その形や味が残りながらも調和して、一つの料理として成り立っています。近年、それぞれの個性や文化が生かされ、尊重されている状態として、「人種のるつぼ」よりも「人種のサラダボウル」が一般的に使われています。

先日のカナダ大使館の出前講座では、カナダは「モザイク国家」とあるという話があり、また、2025年大阪・関西万博の大屋根リングは、理念である「多様でありながら、ひとつ」

を象徴していることも聞きましたね。私は、この南高が、互いの個性を尊重し、「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」と皆さんが思える学校であること、「南高サラダボウル」と言える場であることを願っています。いつもの三つのRの一つ「Respect for others」です。

それでは、令和7年度第1学期の始業式に、新たな気持ちで、笑顔で集まれることを期待して、式辞といたします。